

## 超巨大イヌワシの巣

赤保正文・西村節子・能勢公紀・藤原玉規・石倉則雄・西部泰弘  
清田けい子・市川あけみ・橋本泰和・林幸子・乾慎一・荒木ミサ子・田中良人  
土肥範昭・河島末代・松尾智子（NPO法人 人と自然の会 かわせみの会）



日本での生息が危ぶまれている割に、マイナーな野鳥イヌワシ。博物館3Fに展示されているイヌワシの巣の実物大模型は、一昨年の秋に、人と自然の会のメンバーが深田公園から伐採木の枝を運び、巨大な巣に組み上げた力作です。前回の共生のひろばでは、この巣を使って、記念撮影やイヌワシの解説を行い、来館者にイヌワシをアピールできました。

ところが、積んだ枝の一本一本が大きいので、枝の重みで、だんだんと嵩が減って、1年も経たないうちに見栄えが悪くなっていました。イヌワシは、巣材の枝を毎年積み増して、巣を大きくするそうです。そこで、博物館の巣も新たに枝を足して、去年より広く高く積み、グレードアップしました。



巣が大きいので、これだけの枝が必要でした



なるべくノコギリ跡が見えないように積みました

イヌワシの巣の模型作りをきっかけに、イヌワシの存続には、里山にある草原の存在が大きいことを知りました。昨年9月にはイヌワシが生息する扇ノ山の上山高原で会員研修を行い、草原回復の活動をされているNPO法人上山高原エコミュージアムの方に話を伺いました。今は燃料としての樹木の価値が低く、放って置けば、草原は減っていく一方です。この展示をきっかけに、どうすればイヌワシを存続できるのか、一人でも多くの方に考えて頂きたいと願います。